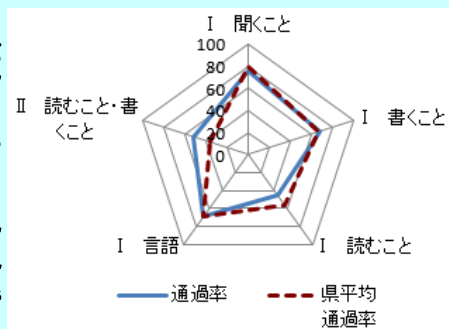
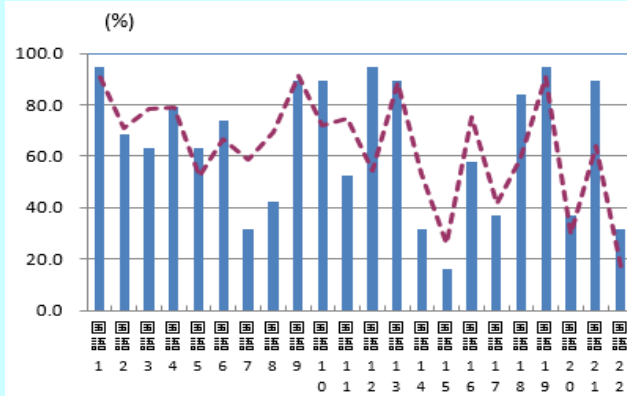


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校64.1%, 県63.7%)

領域別平均通過率



設問1の平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向

タイプ I 「聞くこと」領域の通過率が75.4%で、最も通過率の低かった「読むこと」領域に比べ29.6pt 高い結果となった。特に「要点の聞き取り」では通過率94.7%と、要点を聞きとる力がついでいることがわかる。タイプ II 「書くこと・読むこと」領域では、「文章の構成」で通過率89.5%と一定の定着がみられた。

○課題

タイプ I 「読むこと」領域「文と文との意味のつながり」(89.5%)「段落相互の関係の把握」(31.6%)「中心となる語や文の把握」(15.8%)と、偏りのある定着率であった。文意の理解とともに、関係理解を深める手立てが必要である。タイプ II 情報の関係付けや理由や事例をあげた記述は平均通過率34.2%であった。記述の力を更につけていくことが必要である。

重点課題

【課題1】

タイプ I 大問3設問7では、「生きる喜び」と解答できなかった児童が多く、通過率15.8%であった。文章理解とともに、何を読み取る必要があるのか、問いとの関係を理解する力をつけていくことが必要である。

【課題2】

タイプ II 大問6では、複数の条件を満たしたうえで、論理的につながった文とすることが十分にできておらず、通過率は31.6%であった。必要条件を整理する力とともに、条件を満たしているかどうかを検証する力が必要である。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

文章の関係理解のために、何を問われているのか、どう答える必要があるのか等について読み取る必要感のある場の設定を行うとともに、筆者の伝えたいことをまとめる活動や要旨を考える活動等を行い、読解の技術を高めていく。

【課題2】

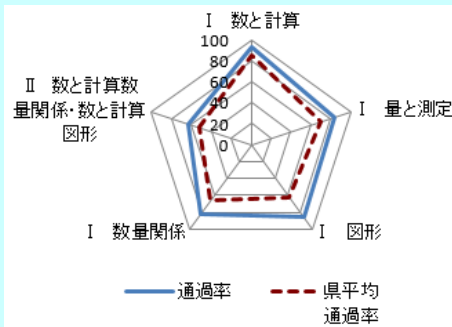
必要な条件を設定した学習場面を作るとともに、条件を満たしているかどうかを検証する場を作り、問いの条件を満たした解答かどうかを児童自身が検証できる学習活動とすることで、必要条件を整理、検証する力をつけていく。また、論理的記述となっているかどうかについて、相互に学びあうことができる場を設定し、書く力を高めていく。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	3, 4, 5年 復習テスト	3, 4, 5年 復習テスト	3, 4, 5年 復習テスト	3, 4, 5, 6年 学期末テスト	全学年 CRT 標準学力調査	3, 4, 5年 復習テスト	「基礎・基本」類似問題 タイプ I 4, 5年
目標値	85%	85%	90%	90%	全国平均以上	90%	70%
実施後数値							

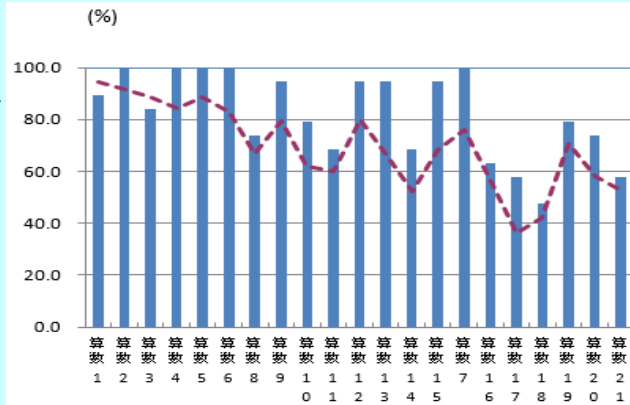
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	3, 4, 5年 復習テスト	3, 4, 5年 町学力テスト	3, 4, 5年 町学力テスト	3, 4, 5, 6年 学期末テスト	全学年 CRT 標準学力調査	3, 4, 5年 町学力テスト	「基礎・基本」類似問題 タイプ II 4, 5年
目標値	85%	85%	85%	90%	全国平均以上	85%	55%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校82.0%, 県69.4%)

領域別平均通過率



数と計算の平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向

「数と計算」領域では、7問中5問が通過率 100%で、基礎的な計算力の定着がみられた。数量関係「四則混合計算」も通過率 100%と、計算力は昨年度同様定着していることがわかる。

○課題

H27「数量関係」領域「折れ線グラフと棒グラフの関連付け」(31.8%), H28 では同設問で(47.4%)の通過率であった。2年連続した通過率の低さは、授業改善の取組が十分でないといえる。数値化や読み取りの技術だけでなく、「課題発見・解決学習」の手法を取り入れた授業改善を更に進める必要がある。また「図形」領域でも、H27「平行四辺形の判断」(68.2%) H28「ひし形の判断」(68.4%)と、正答率が向上していない。

重点課題

【課題1】

タイプII大問10(2)の折れ線グラフと棒グラフを関係付けて考え、その理由を記述する問いの通過率は47.4%であった。1つのグラフの結果からの記述や、論理的に整合性のない記述が多く、グラフから読み取ったことを整理し、関係付けて記述する力に課題がある。

【課題2】

タイプII大問11(3)ことばと数を使って硬貨の種類と枚数について説明する問いの通過率は、57.9%であった。感覚的には理解しているが、論理的に説明するための内容が不十分な解答が多かった。条件を満たしたうえで論理的に記述する力に課題がある。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】

グラフを活用する学習場面では、グラフからの読み取りを正確に行う練習を繰り返すとともに、異種のグラフを読み取り、結果を複合させて答える問いを設定する。また、必要な説明が何かを理解して記述することができるようグループ活動等を取り入れ、記述力を高めていく。

【課題2】

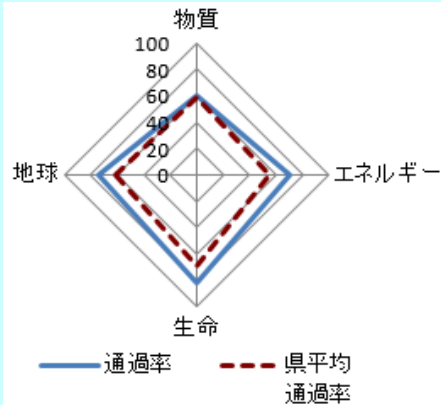
根拠を明らかにした書き方を学習場面に設定する。記述した内容を比較、分類することや、よりよい記述内容を体験的に理解できる場を設定することで、論理的な記述力を高めていく。また、他者に根拠をあげて説明する場面を設定し、説明する力を高めていく。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	3, 4, 5年 復習テスト	3, 4, 5年 復習テスト	3, 4, 5年 復習テスト	3, 4, 5, 6年 学期末テスト	全学年 CRT 標準学力調査	3, 4, 5年 復習テスト	「基礎・基本」類似問題 タイプI 4, 5年
目標値	85%	85%	90%	90%	全国平均以上	90%	90%
実施後数値							

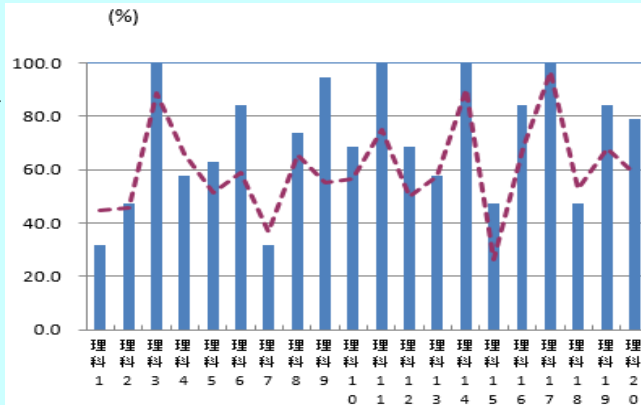
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	3, 4, 5年 復習テスト	3, 4, 5年 町学力テスト	3, 4, 5年 町学力テスト	3, 4, 5, 6年 学期末テスト	全学年 CRT 標準学力調査	3, 4, 5年 町学力テスト	「基礎・基本」類似問題 タイプII 4, 5年
目標値	85%	85%	85%	90%	全国平均以上	85%	70%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校71.1%, 県60.6%)

領域別平均通過率



設問1の平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向
「生命」領域の平均正答率は81.6%と、H27年度比+9.8pt向上している。中でも「昆虫の体」はH27+59.1ptの100%の通過率であった。反復練習と、意欲・関心を持たせる授業展開の工夫が定着につながった。
- 課題
「物質」領域の平均通過率はH27と比べ-20.0ptの60%であった。中でも「物の重さのはかり方」は、通過率31.6%と低かった。この問題は、はかりの目盛りに着目した誤答が多く、感覚的な解答が原因と考えられる。基礎的な知識の定着はある程度認められることから、「物質」領域における活用力を伸ばすための手立てが必要である。

重点課題

【課題1】

大問1(1)は、はかりの使用法に着目してしまった児童が多く、通過率31.6%であった。器具の使い方と、目的に応じた統一条件という、異なった項目を混同してしまったことが原因である。問いを読み取り、内容を理解する読解力に課題がある。

【課題2】

大問7(4)は、複数の条件を比較することができず、一つの条件で判断してしまう児童が多く、通過率47.4%であった。条件から結果を導き出し、それらを関係付けて考える力に課題がある。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】

実験や観察の場面では、活動の目的や意図を理解して取り組むことや、なぜその活動が必要なのかを理解するために、児童自身が課題意識を持って実験や観察に主体的に取り組むことができるような授業展開にする。意欲的に学習課題に取り組むことができるようにすることで、学習経験をいかした読解力の向上を目指す。

【課題2】

実験や観察を行った後、根拠を明確にしたり、関係付けて考えたり、論理的に記述したりできるよう、考察をまとめる活動を行う。また協働的な学習となるよう意図的にグループ等を活用し、関係付けて考えることができる場を持つようにする。

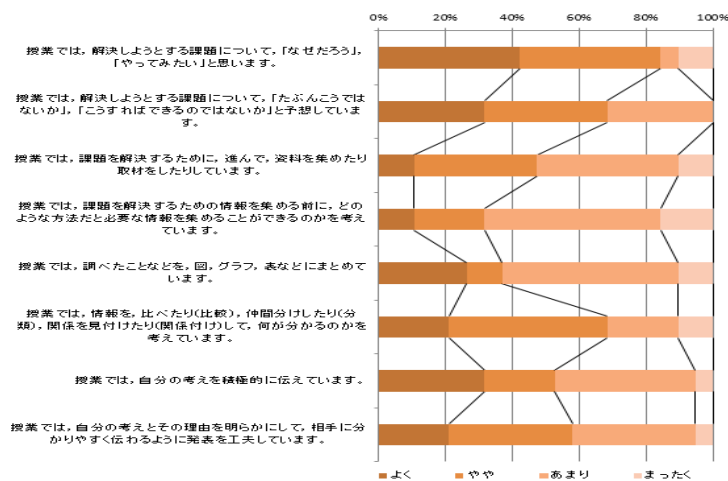
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	3, 4, 5年 復習テスト	3, 4, 5年 復習テスト	3, 4, 5年 復習テスト	3, 4, 5, 6年 学期末テスト	3, 4, 5, 6年 CRT標準学力調査	3, 4, 5年 復習テスト	「基礎・基本」類似問題 タイプI 4, 5年
目標値	85%	85%	90%	90%	全国平均以上	90%	80%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	3, 4, 5年 復習テスト	3, 4, 5年 町学力テスト	3, 4, 5年 町学力テスト	3, 4, 5, 6年 学期末テスト	3, 4, 5, 6年 CRT標準学力調査	3, 4, 5年 町学力テスト	「基礎・基本」類似問題 タイプII 4, 5年
目標値	85%	85%	85%	90%	全国平均以上	85%	60%
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

(1) 生活・学習

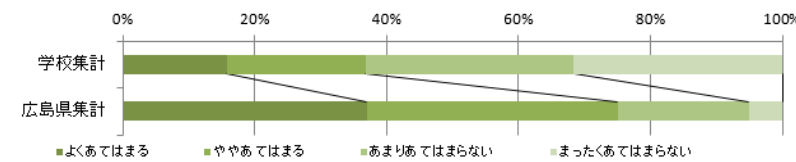
「課題発見・解決学習」(1)



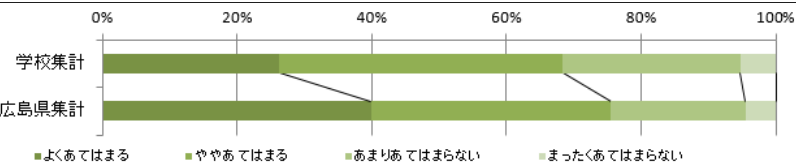
児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
質問(16)「どのような方法で必要な情報を集めるか考えている」の肯定的評価が31.6%であった。中でも「よく」は10.5%と低く、情報をどのように収集したらよいかという、主体的に学ぶための手立てについて課題があることがわかった。	情報の収集は、自分が知りたいことは何かをはっきりしていることと、それについてもっと知りたいという欲求がなければ十分にはできない。情報収集の必要感を持たせる学習展開の工夫とともに、方法の選択ができるよう、教師の役割を情報提供から情報収集支援へと切り替え、児童が主体的に学ぶための学習環境を作る。	4・5年	70%	児童質問紙	2月		

(2) 教科

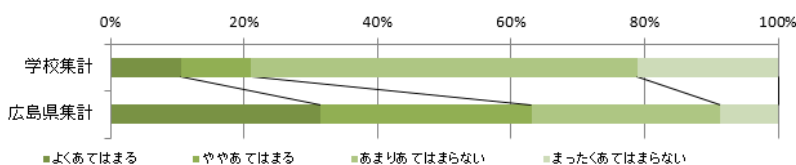
国語の授業では、中心となる語や文を見つけたり、段落と段落のつながりに注意したりして文章を読んでいます。



算数の授業では、とき方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では、自分の考えをまわりのひとに説明したり発表したりしています。



	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	肯定的評価が県平均75.2%と比べ36.9%と-38.3pt低い。要旨をとらえる力や、関係を理解するために必要な読解力に課題がある。	文や段落の中からキーワードとなる言葉にラインを引くことや、段落を関係図で表すことなど、視覚化できる学習を取り入れることで、「中心となる語や文」「つながり」を意識化できるようにする。	4・5年	80%	児童質問紙	2月		
算数	「よくあてはまる」の県平均39.9%に対し、26.3%と-13.6pt低い。根拠となる資料の読解や活用に自信が持てない状態であることがわかる。	「ややあてはまる」は42.1%と県平均を+7.3pt上回っている。根拠となる資料の読解や活用、伝え方等の具体的方法を体験的に学ぶ場の設定とともに、自信を持つことができる形成的評価を行う。	4・5年	80%	児童質問紙	2月		
理科	肯定的評価が21%と県平均より-42.1pt低い。実験や観察後の活動において、説明や発表の活動が十分に機能していない状態であることがわかる。	実験や観察の活動だけでなく、考察等の思考場面における話し合う活動を意図的に設定し、説明や発表することで考えを比較・整理できるようにする。	4・5年	80%	児童質問紙	2月		